

中小工事協組の協同行為

教室空調などで成果拡大

中小の空調設備工事会社が協同行による規模追求を図りつつ競争力を高め、受注高を伸ばしている。東京冷凍空調事業協同組合（理事長＝沖原正宣氏）、関西冷凍空調事業協同組合（理事長＝植木茂嘉氏）は九月二十六日、協同行を通過した成果が高まってきたと、業界メディアを対象とした事業説明を行った。東京冷凍空調では昨年度の学校教室空調の大型受注に続き、今年度は公共工事の受注量を積み上げている。また関西冷凍協組も大阪府枚方市の学校教室空調でパッケージ二千台超の大型案件を受注。こうした成果を踏まえ、両協組では来年にも日本冷凍空調事業協同組合連合会（仮称）を設立し、協業化に向けたスケールアップを目指していく。

東京冷凍事業協組は〇六年度に始動し、昨年には四十三億円を計上するなど急成長を遂げてきた。今年度は公共工事にも三億円規模の受注を重視。また関西冷凍事業協組は東京を先行モデルとして一昨年に設立。一年間の準備を経て臨んだ今年度は枚方市の学校空調向け大型受注を獲得するなど立ち上がりは好調。この案件は枚方市の七十四校・二千百教室を空調化するもの。導入機器は空調（外機）ベースで二千台超、室内機は三千五百〜三千六百台を設置

するもの。受注額は二億円超となる見込み。空調機は換気機能付きのパッケージエアコン（三洋電機の「換気もくっぴー」）を主力に導入。八月までに三十一校を消化、十一月までに二十八校、来年三月末までには全校を竣工する予定。対象は中学校十九、小学校四十五、幼稚園十一の合計七十五校のうち、全面改築を行った一校を除く七十四校。枚方市のPFIに基づき競争入札で、民間資金を活用したPFIは、関西地区では京都が先駆け、枚方は三番目とされる。緑化対策などを含めたPFI事業費は総額五十一億円余。

関西冷凍事業協組は〇六年、植木理事長の呼びかけによって京都市内の十社が参画して始動（現在は十一社に拡大）。植木理事長は、東京冷凍事業協組の沖原理事長から組織化の打診を受けたことがきっかけとなったが、「下請け・孫請けが常態となり、次世代へは後継にも悩む多い中小零細の設備工事会社が（将来に）夢を持てる組織」として組織化を進めた。共同購入や親睦にとどまらず、「設備工事会社の命題である競争力ある受注活動ができる一ことも選択の理由としてあげる。組合員は社員数二〜三人、十五〜十六人規模の中小空調設備会社が中核となり、ほかに電設会社が一社参画している。学校空調の大型受注は、東京冷凍事業協組との連携が深いイース（本社・東京都）がプランニングするなどネットワークを活かした。空調設備工事の実務は関西冷凍事業協組の北川孝二・副理事長が陣頭に立ち、協力業者も駆使しながら二千台余という巨大プロジェクトを消化した。PFI

Iは十三年間の保守管理が要件となっており、継続事業が約束されるが、同協組では今は学校空調のほか、官公庁、民間案件にも受注範囲を拡大させていく考え。また地域展開でも関西地区に広域展開していく考えを示唆。

先行始動した東京冷凍事業協組では今年度、官公需適格組合証明を活かして官公需物件を三億円規模で受注するなど実績を重ねている。東京冷凍事業協組では公共工事参画の条件整備、ノウハウ提供など情報交流なども行いつつ商品販売、ネット販売などの手法提供にも留意、相乗効果を高めていきたいとしている。

東京冷凍事業協組では、IT利用のネット販売会社であるエアネットマートを設立、商品販売に乗り出したのに続き、今年は米国ASII社の超微粒子霧を噴霧する「ゴールドフオグシステム」の国内販売権を取得し、同組合内に「ゴールドフオグ事業部」を設置して営業展開している。

軌道に乗せつつある。物件需要の多くは東京に発生することも多く、「（東京に発生する）市場情報の交換に期待したい」（植木理事長）として、中小設備工事会社が協業化し、スケールメリットを發揮しながら川上組上を高めるなどの目的を共有して発会。関西では直近も枚方市の学校空調の大型受注に奏功するなど

「日空連」の設立を準備

日本冷凍空調事業協同組合連合会（仮称、略称「日空連」）が来年早々にも発会する。東京冷凍空調事業協同組合（理事長＝沖原正宣氏）、関西冷凍空調事業協同組合（理事長＝植木茂嘉氏）は、両協組の協同行を通過した成果が高まってきたと、業界メディアを対象とした事業説明を行った。東京冷凍空調では昨年度の学校教室空調の大型受注に続き、今年度は公共工事の受注量を積み上げている。また関西冷凍協組も大阪府枚方市の学校教室空調でパッケージ二千台超の大型案件を受注。こうした成果を踏まえ、両協組では来年にも日本冷凍空調事業協同組合連合会（仮称）を設立し、協業化に向けたスケールアップを目指していく。

「植木茂嘉氏」の協同組織として構想、将来的には各プロジェクトの協組作りを募りつつ広域ネットワークを視野に置く。素案では、東京都に事務局を置き、冷凍空調の最先端技術の情報交流を図りつつ省エネ手法・エネルギーリユース手法を提供していく。関西では直近も枚方市の学校空調の大型受注に奏功するなど

軌道に乗せつつある。物件需要の多くは東京に発生することも多く、「（東京に発生する）市場情報の交換に期待したい」（植木理事長）として、中小設備工事会社が協業化し、スケールメリットを發揮しながら川上組上を高めるなどの目的を共有して発会。関西では直近も枚方市の学校空調の大型受注に奏功するなど